

かわのことば【環境編】

■ 瀬や淵

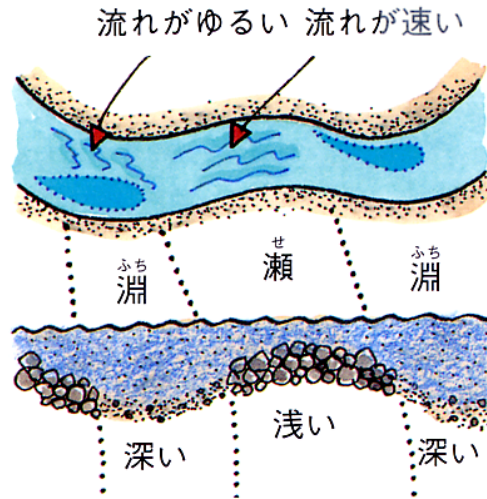
瀬は、川の水深が浅くて流れが急なところをいい、早瀬と平瀬に分けられます。

早瀬は、流れは速く、水面には白波が立つ。底質はおおむね浮石です。

平瀬は、流速は早瀬よりはやや遅く、水面にはしわのような波が立つ。底質はおおむね沈み石です。

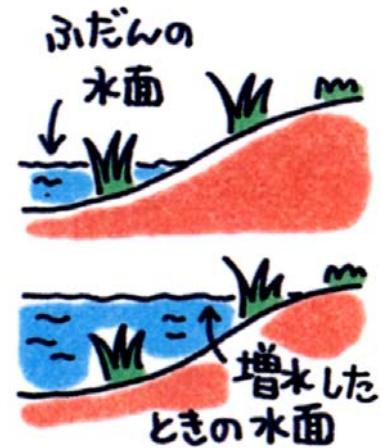
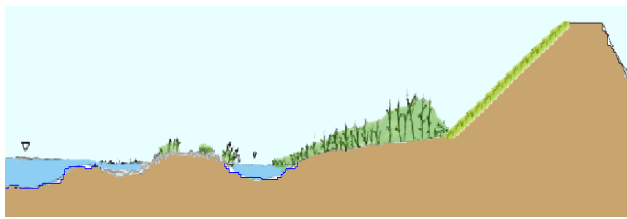
淵は、流れがゆるやかで水深が深いところで、水面は波立たず、底質はおおむね砂質です。

また、瀬や淵は、魚種の餌場や休息の場となる重要な生息地です。



■ 水辺移行帯

河川、湖沼の水面と地表面が交わる所です。また、水域・陸域が入り組み、多様な環境のある場であって、生物の生息・生育上重要な役割を果たしている重要な場です。



■ 魚道（魚の通り道、魚遭）

秋に河口（かこう）で生まれ、冬になると海で成長し、春になると川に上って、夏の間は川底で藻（も）を食べ、晩夏（ばんか）に河口で産卵するアユ。また、川で生まれ、海で大きく成長して4、5年後川にもどって産卵をするサケ。

このように、川にいる魚でも、川を上ったり、下ったりしているものが多いです。こうした魚たちにとって、堰（せき）やダムは、川を上ったり、下ったりするときに、障害物になってしまいます。

そこで、このような構造物に特別な水路や装置を設けて、魚たちの通り道を確保するのが「魚道（ぎょどう）」です。堰などに見られる階段式の魚道がポピュラーですが、現在では、様々な形式のものが開発されています。魚にやさしい川づくりが求められている近年、魚道は生態（せいたい）環境の保全に大きな役割を果たします。



階段式魚道



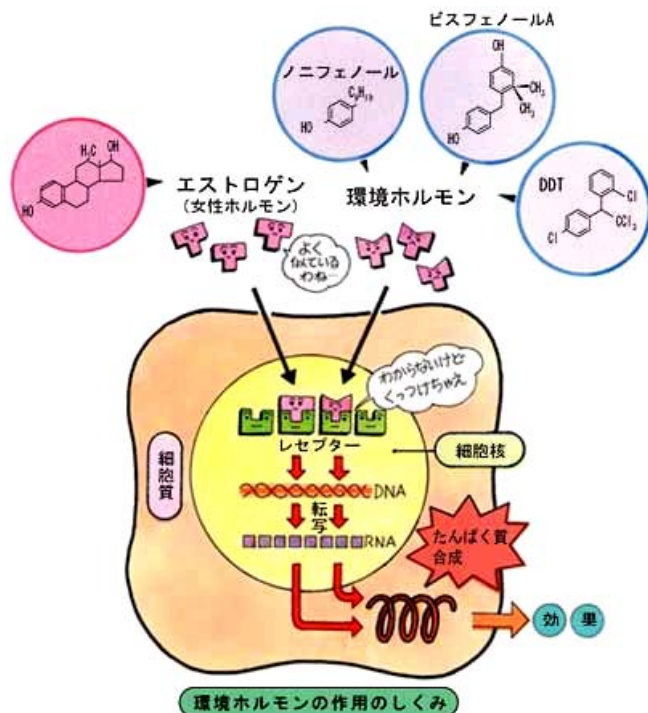
全段面魚道

かわのことば【環境編】

■ 環境ホルモン

身体の各器官の活動を調整するホルモン（内分泌物質）の働きを乱し、生殖異常などを引き起こすとされている化学物質を、一般に「環境ホルモン」と呼びます。正式名称は「外因性内分泌攪乱物質」。

環境ホルモンと疑われる化学物質は、全部で65種類あります。“工業化学物質”とその製造過程で思いがけずできてしまった“非意図的生成物質”に分けられます。ほかに人畜由来ホルモン、植物ホルモンがあります。



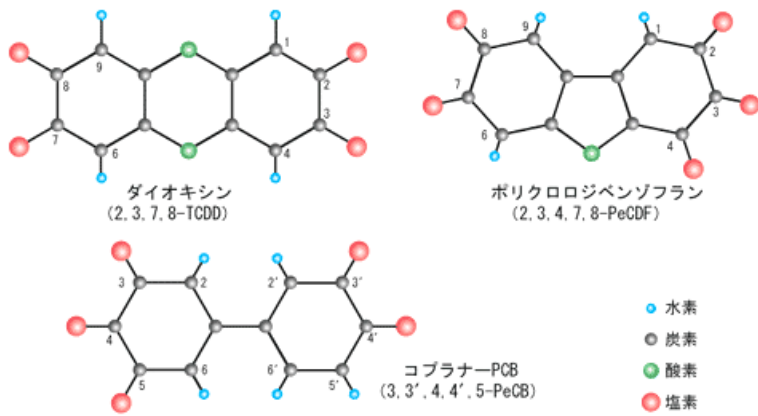
環境ホルモンは本物のホルモンと形が似ているため細胞のレセプター（受容体）と反応し、同じように作用する。

■ ダイオキシン

ダイオキシンは、無色無臭の固体で、ほとんど水には溶けませんが、脂肪などには溶けやすいという性質を持っています。

ダイオキシン類はそれ自体に有用性がないため、意図的に製造されることはありませんが、プラスチックなどの有機塩素系の化合物が焼却処理される過程で発生してしまうことがあります。

環境省は、これまで環境基準のなかった海底や川底の泥に含まれるダイオキシン類について、新たに環境基準値を設け、許容濃度を泥など1g当たり150pg（ピコグラム、1兆分の1g）以下としています。また、水質についても以前から水1g当たり1pg（ピコグラム、1兆分の1g）以下の基準を設けています。



■ BOD（生物化学的酸素要求量）

水中の細菌が、水中にある有機物を酸化分解するために消費する酸素量をいいます。通常20℃で5日間培養したとき、消費される量を示します。この値により水中の生物化学的分解を受ける有機物の量を示します。

一般に、河川の水の汚れ具合を示すモノサシとしています。